AsiaNet 97021 （1659）

中国東部の台州刺繍が無形文化遺産を現代生活に織り込む

【台州（中国）2022年7月18日新華社＝共同通信JBN】Taizhou Embroidery Museum（台州刺繡美術館）によると、最近、米国、ニュージーランドなど8カ国からの外国人教師と学生が、Taizhou Embroidery Life Art Museum（台州刺繡生活美術館）を訪れ、台州刺繡文化を体験する旅に出た。

パキスタンからの外国人教師であるマリク氏は非常に感銘を受けた。同氏は「以前に絹の製造工程を見学したが、今回は台州で絹がどのように芸術作品になるかを見ている。とても美しい。これらの作品は本当に印象的だ。そのうえ、芸術的かつ実用的である。私はそれらが本当に好きだ！」と語った。

Taizhou Embroidery Life Arts Museumは、台州刺繡の第3世代継承者であるLin Xia氏によって設立された。美術館は無料で一般に公開されており、台州刺繡の発展を紹介し、台州民俗刺繡文化を宣伝している。中国の芸術・工芸の達人として、Lin氏は伝統的な刺繡の技巧と現代ファッションを組み合わせ、台州の独特な地域の刺繡の特徴を備えた新しいジャンルを形成している。同氏は独自の文化的ブランドを設立し、伝統的な刺繡技術を主力とする文化的かつ創造的な産業チェーンを構築した。

中国の南東岸、浙江省に位置する台州は、その豊かで独特な文化的堆積物の中に刺繡文化の長い歴史を持っている。古代から発掘された絹織物の切れ端から判断すると、台州刺繡には1000年以上の歴史がある。清代後期、古代の台州刺繡は外国の彫刻刺繡と完全に組み合わされ、地域の特徴を備えた現代の台州刺繡を形成した。

西洋の美学と中国の伝統的スキルの両方を備えた民芸品として、現代の台州刺繡は3世代にわたる継承の後、中国で300近い刺し方の手法を持つ、最も特徴的な地域の刺繡タイプの1つに発展し、浙江省の無形文化遺産リストに登録され椒江区の無形文化遺産を特徴するものとなっている。

台州市と椒江区の無形文化遺産部門の指導の下、地元企業は台州刺繍の歴史的進化、地域文化、社会的価値、遺産の起源を調査し、整理してきた。台州刺繡の文化的、技術的、芸術的要素は、創造的なデザインを通じて抽出され、変換されている。地元企業は、独自の地元文化を相続資産として、また無形文化遺産の刺繡を無形のスキルを現代の生活に統合する担い手としてとらえている。台州刺繡は現在、職人技、知覚、実用性の完成への道を進んでいる。

ソース：Taizhou Embroidery Museum, Zhejiang Province

画像添付リンク：

Link: <http://asianetnews.net/view-attachment?attach-id=425453>

画像説明：台州刺繍職人が刺繍を製作